るさと学芸員
の講演から③

神埼の地名 ～地名から歴史を読む

講演者　九州大学比較社会文化研究院
社会情報部門教授　服部 英雄 氏

しこ名は地域の歴史遺産

延べ2,000人が調査に

中世の荘園（「神崎庄」）だった神埼・千代田地区をはじめ佐賀平野には、土地台帳には載っていませんが、地元の人だけしか知らない古い地名・しこ名がたくさんありました。ところが、そうした地名を知っている人が高齢化した上、圃場整備によって、クリークや農道、あぜなどの区画が変わってしまい、このままでは、口承で地域に伝わってきたしこ名が消えてなくなってしまう恐れがありました。

土地台帳などの記録に残っていない古いしこ名は、地域生活の中で命名され、多くは古代以来口承されてきた歴史遺産であり、歴史研究の大切な資料として後世に伝えるべきだと私は常々考えていました。

そこで、1994年7月から大学の学生たちと、バスで各地へ入り、地域の古老や区長といった方々から古い地名を聞き取り調査しました。3年がかりの調査で、参加した学生は延べ2,000人、調査した村、今で言えば大字に当たりますが、700に及びました。しこ名の由来を調査・分析するとともに、地図に記入し、2001年に「二千人が七百の村で聞き取った二万の地名、しこ名～佐賀平野の歴史地名地図稿」という本を花書院から出しました。

しこ名を記入した神埼町北部の一部地図

条里制の名残多い地名

神埼にみられる地名でまず古いのは条里地名です。牛馬耕に適するように土地を区画整理し、一反の田（長地という）を碁盤の目に並べ、用水を引くため水利工事もするという大土木工事です。とても大変な事業でした。条里制は9～10世紀にはできたといわれますが、完成までには恐らく100年も200年も、もっと長く数百年はかかったと思います。

佐賀平野は日本でも有数の条里制地帯でしたが、30年ほど前の圃場整備で条里制による区割りはほとんどなくなりました。しかし、神埼町の駅ヶ里、平ヶ里、千代田町の十条、東野ヶ里などのように、条里制の名残を示す地名が神埼市にはたくさん残っています。

条里を記した古代や中世の古文書も残されています。神埼荘（神崎庄）が蒙古合戦の恩賞地として分割配分されたことで、関係地名が多数記録されました。居去里（諫里）とか吉野ヶ里とかは、条里の里の方です。三根郡境から順番に西へ一条、二条と、条里の条も定められています。十条（千代田町）は条の方の地名です。

明治政府は一本柳から八本柳、あるいは一本松から四本松までというように、数字と植物名を組み合わせた地名を機械的に命名し、それが今日まで土地台帳に残っています。

私が今日取り上げるのは、土地台帳にはないが、地域の人たちが口承で伝えてきた古い地名・こうしたしこ名です。一ノ坪、二ノ坪という条里坪地名も含まれます。学生たちとともに、古老に聞き取り調査し、2万のしこ名を地図に落としたと申し上げましたが、その主なものを神埼市の例から拾い出してみましょう。

あなたもふる

続「神埼塾」

地域のしこ名を後世に残そう

地元の人が「ジャーバ（台場）」と呼ぶ岩田台場屋敷跡＝神埼町岩田

ジャーバ？コウクタ？

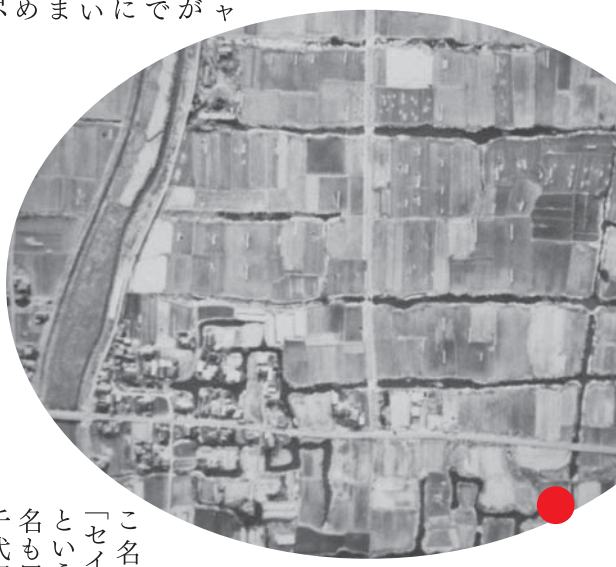
神埼町仁比山地区の「エンシュウ」や佐賀平野に多い「エンショウ」という地名は、調査の結果、語源は「煙硝蔵」であり、火薬庫があった所と考えます。戦争で使う火薬の倉庫・火薬庫は城内に作るものですが、佐賀藩では各地にも分散配置していたようです。

神埼町岩田地区の「ジャーバ」は佐賀藩の射撃場があった所、つまり「台場」です。石井ヶ里、馬郡あたりに「イセメン」「セイフクジ」というしこ名が何ヶ所かありましたが、前者は神社のために免税になっている祭り田、後者は勢福寺城を維持するための田でその田からの米は勢福寺城に運ばれたと考えます。志波屋の「カグラデ」、平ヶ里の「カグラメン」は「神楽田」「神楽免」と推測され、神社にかかわる免田のあった所と言えます。

「ハサコ」名も多いが、これは畑と畑に挟まれた細長い田んぼの意味です。神埼町尾崎西分に「オオウミラクチ」とありますが、小城や武雄で聞き取り調査の結果、「ミラクチ」は「水口」、つまり水の取り入れ口であり、「大水口」からきていると思います。

神埼ヶ里にある「化粧田」はなんとも優雅なしこ名ですが、嫁入りのときに娘に持たせてやった田んぼのこと。娘への愛情を表現するしこ名です。神納に「ヨジャク」がありますが、「ヨウジャク」も含めて県内各地で検出される普遍的なしこ名であり、語源は「用作」、これは領主の直轄手作り地と考えられます。

佐賀平野で「乾く」ことを「コウク」といいますが、「コウクタ」は水がかりが悪く、乾きやすい田んぼに由来するしこ名です。「セイサツ」というしこ名も尾崎や千代田町小鹿、東野ヶ里、下西、藤東などにあります。いずれも村の入り口や郡の入り口にあり、外部の人を警戒する「制札場」があった所に違いありません。神埼町姉川の「カミャーグチ」は「構口」、荒堅目の「キンド」は「木戸」であり、「セイサツ」に似た意味でしょう。



昭和50年代千代田町柴尾地区の田んぼ、堀割それぞれにしこ名がついていました

類似地名の観察が大切

千代田町姉の「ケイツグロダ」、嘉納の「ケーツグロ」は水鳥の「カイツブリ」からきており、カイツブリ（キャーツグロ）もすみつくほどの低湿地で、水がたまる所を指します。荒堅目の「イニイズミ」、千代田町川崎の「イヌイズミ」、渡瀬の「イニイズミバシ」は、いずれも村の西北の角（戌亥角）にあることに由来します。

姉川や尾崎、千代田町上直鳥、東野ヶ里の「テイキバシ」「チャーキーバシ」「タイキバシ」は馬の鞍（チャーキ）の形に由来し、中央が高くなっている橋の意味と考えます。「チイジ」というしこ名が神埼町北部の仁比山、城原地区のあちこちにあります。「築地」がなまったしこ名であり、堤防状に築かれた所です。「ノウシロ」「ノウシロダ」の語源はいうまでもなく「苗代」です。苗代向きの湿地という意味でしょうか。

私の経験からすると、一見理解しがたい地名も、いくつかの類似例を集めていけば、おのずと意味が分かる場合が少なからずありました。地名を理解するには同じ地名の多くに接すること、類似の地名を集め、現地に足を運んで聞き取りを進めるか、自分で観察してみること。そうした作業が不可欠です。その地域独特の発音、方言や歴史的な言葉が今日どのように伝わっているのかの考察も必要になってきます。

延べ2,000人の学生とともに聞き取り調査に当たったといいましたが、学生たちの出身地はさまざまで、佐賀なまり、佐賀方言に少なからず戸惑ったと思います。仮に佐賀県出身の学生でも、おじいさんほどに世代差のある古老の話の聞き取りには相当苦労したでしょう。中には、聞き取り違いもあったかもしれません。場所を正確に書けなかったことは相当に多かったです。そうした点・間違いをご指摘いただけたらよりよい歴史遺産が後世に残せると思います。

◎問い合わせ先
神埼市役所　市長公室
☎37－0102